

KVK 壁付サーモスタット式シャワー水栓 KF132(N)(W) 〈各仕様共通〉 施工説明書

- 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
- この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
- この施工説明書はKF132N仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です
 この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

<p>禁止</p> <p>湯水を逆に配管しないでください。給水管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>禁止</p> <p>給湯温度は85°Cより高温で使用しないでください。</p> <p>85°Cより高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>禁止</p> <p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>警告</p> <p>スチームルーム及び乾燥室にご使用の際は相取ください。</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>禁止</p> <p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>注意</p> <p>温度調節ハンドルの目盛が、吐水温度と合っているか確認してください。</p> <p>取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならず、やけどをするおそれがあります。</p>
<p>注意</p> <p>ストレーナの滞りは止水弁又は元栓で必ず漏水を止めてから行ってください。</p> <p>ストレーナをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>禁止</p> <p>寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p>水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>禁止</p> <p>配管などの解水のため、解水機をご使用の場合、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

<p>禁止</p> <p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>禁止</p> <p>めっき仕様の場合 めっき部品は、ぶつかり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p>禁止</p> <p>めっきシャワーヘッド仕様の場合 めっきシャワーヘッドは、公衆浴場・レジャー施設等、不特定多数の方が頻りに利用する場所では使用しないでください。</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。</p>
<p>注意</p> <p>凍結が予想される際は、一般地仕様をのり場合、水栓本体や配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。</p> <p>注意</p> <p>水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>		

取り付け前に

① 使用水圧〔A=(給湯機の最低作動水圧)+(配管圧力損失)〕

(1) 瞬間給湯機との組み合わせ (設定条件 水温: 25°C 給湯機温度調節: 高温 吐水温度: 42°C ハンドル全開)
【比例制御式】 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

(2) 貯湯式給湯機との組み合わせ
【給湯・給水圧力】 最低必要水圧: A+50.0kPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)

② 吐水切換ハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。

③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。

④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。

⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁を、0.2MPa程度に減圧してください。

⑥ 給湯機の給湯温度は、必要とする吐水温度より10°C以上高くしてください。なお、安全のため60°C給湯をおすすめします。

⑦ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。

⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばない、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。

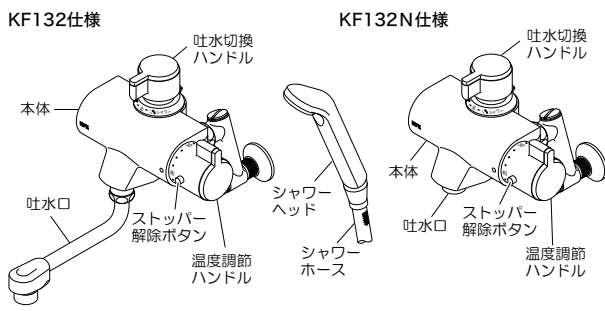
⑨ 本製品は、改造(加工及び接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。

⑩ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

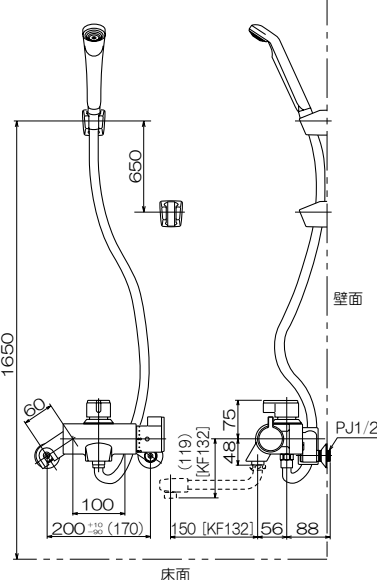
取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

部品の形状は仕様によって異なる場合があります。

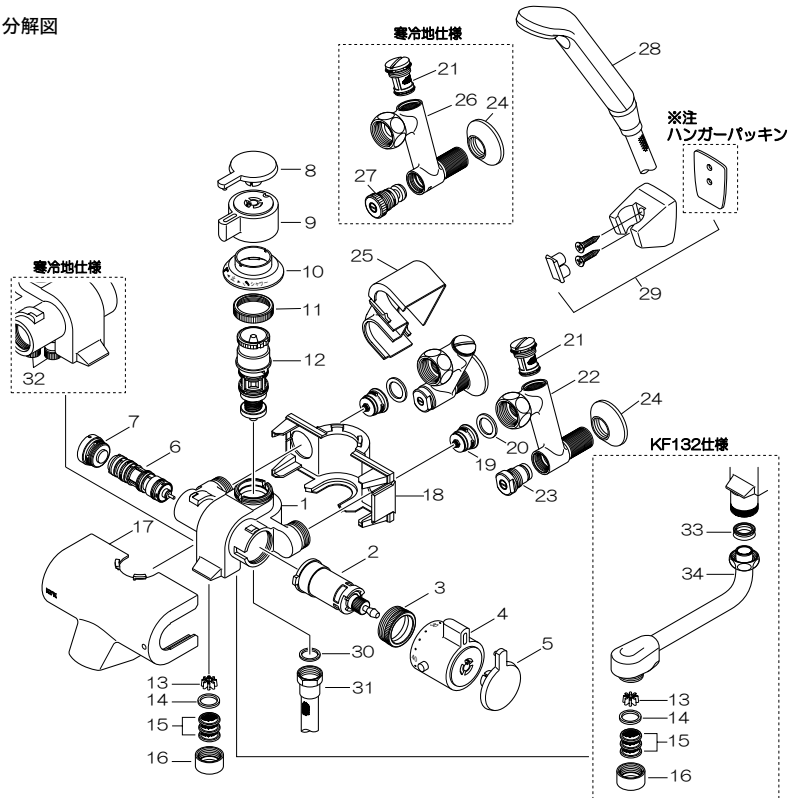
取り付け完成図と各部の名称



寸法図 下記寸法は仕様によって異なる場合があります。



分解図



1 本体	11 切換用固定ナット	21 ストレーナ	31 シャワーホース
2 温調ボンネット	12 切換ボンネットユニット	22 ソケット	32 水抜き栓
3 温調用固定ナット	13 水切り	23 止水弁	33 Xバックシン
4 温度調節ハンドル	14 パッキン	24 送り座	34 吐水口
5 キャップ	15 ストレーナ	25 ソケットカバー	
6 サーモスタットカートリッジ	16 整流器キャップ	26 ソケット	
7 サーモキャップ	17 カバーA	27 水抜き栓付止水弁	
8 キャップ	18 カバーB	28 シャワーヘッド	
9 吐水切換ハンドル	19 逆止弁	29 シャワーハンガー	
10 切換カラー	20 パッキン	30 パッキン	

※注 ハンガーバックシンは、仕様により同梱されていないものがあります。

